第21回 小学校英語教育学会(JES) 関東・埼玉大会　自由研究発表プログラム

自由研究発表　10月10日（日）【午後の部】　⑥ 12:50～ 13:20　⑦ 13:30～14:00　⑧14:10～14:40　⑨14:50～15:20　⑩15:30～16:00

教室	発表時間	発表タイトル	発表者	所属	研究/実践	発表概要	司会者
第1室	⑥	小学校国語科学習指導要領から見る外国語活動・外国語科の授業実践への示唆	篠村　恭子 大谷　みどり	島根大学 島根大学	研究	本研究は，小学校国語科と外国語活動・外国語科の学習指導要領の記述を比較して分析することを通して，外国語活動・外国語科の授業実践につながる示唆を得ることを目的とする。母語と外国語の違いはあるものの，言語を指導（学習）の対象として扱う両教科等に共通する点や相違点についてを「ことばへの気づき」の視点を参照しながらまとめ，外国語授業実践につながる示唆や両者の指導連携の可能性について報告する。	太田かおり
	⑦	思考ツールで育む，小学校外国語5領域の言語活動 ～思考を伴うinputから，他者意識を高めたoutputへ～	奥平　明香 加藤　拓由	浦添小学校（沖縄県） 岐阜聖徳学園大学	実践	小学校外国語科の言語活動で思考を伴った「聞くこと」の活動を行うことで，「話すこと」「書くこと」の質も高まり，他者意識のある深い言語活動ができる。「聞くこと」と「読むこと」の場面では，思考ツールを活用することで，相手意識が高まり，相手とよりよく知り合おうとする子供が増えた。また「書くこと」においては，話した内容の中から，伝えたい中心となる事柄を再整理し，読み手を意識して英語の文を書く児童が増えた。	
	⑧	既習表現の活用を促す単元末の言語活動 ～YouTuberコンテストの実践を通じて～	宮田　学	岸和田市立城内小学校	実践	外国語が教科化され，それぞれの単元で身に付けた表現を，他の単元でも活用することが求められる。しかし，現状としては各単元の新出表現を定着されることに精一杯である。 そこで，学びの主導権を子どもたちに託し，学習者中心の単元を構成し，動画のコンテストのポイント制にすることで，既習表現を子どもたち自身が活用したくなるような実践ができないかと考えた。	
第1室	⑨	学習者の視点から検証する，小学校外国語活動 ～教員養成プログラムの大学生を対象とした小学生時に受けた外国語活動についての振り返り調査～	金子　淳 バトラー後藤裕子 山口　常夫	三重大学 ペンシルバニア大学 東北文教大学	研究	これまで外国語活動について様々な調査が行われてきたが，授業内容の改善について学習者の視点からの検証は行われてこなかった。それで，大学生を対象に自分が小学生だった時に受けた外国語活動について振り返ってもらい，外国語活動の検証をした。その結果，これまでの外国語活動を学習者は概ね前向きに評価している一方，その多くが先生とALTの連携，授業内容，ICT活用について，改善して欲しいと感じていることなどが明らかになった。	大谷みどり
	⑩	自律した英語学習者育成に向けた一歩（実践報告） ーデジタル・リーダー活用による家庭学習と学校授業のリンクー	三ツ木　由佳	立命館小学校（京都）	実践	本発表では，デジタル・リーダーを活用したオンライン学習実践について報告する。2020年度から2021年度にかけて，4年生から6年生を対象に取り組みを進めている家庭学習と学校授業のリンクのさせ方，また家庭学習として取り組ませる際の留意点や，作成したワークシート，ウェブアンケートなどをまとめ，今後の自立した英語学習者育成を目指した授業，学習方法のあり方を考察する。	

第21回 小学校英語教育学会(JES) 関東・埼玉大会　自由研究発表プログラム

自由研究発表　10月10日（日）【午後の部】　⑥ 12:50～ 13:20　⑦ 13:30～14:00　⑧14:10～14:40　⑨14:50～15:20　⑩15:30～16:00

教室	発表時間	発表タイトル	発表者	所属	研究/実践	発表概要	司会者
第2室	⑥	タブレットを用いたチャンツ暗唱の自己評価：児童は自分のパフォーマンスをどのように捉えているか	川井　一枝 栄利　滋人 鈴木　渉	宮城大学 仙台市立国見小学校 宮城教育大学	研究	本研究の最終目的は，チャンツの役割を検証・考察し，効果的な指導法を提案することである。本研究の最終目的は，チャンツの役割を検証・考察し，効果的な指導法を提案することである。本発表では，児童がタブレットを用いて録音した自分のチャンツを聞き，どのように感じているか，また，その意識はどのように変化するかについて調査した結果を報告する。当日は，自由記述の内容や担任の観察記録からの様子も合わせて議論したい。	東　悦子
	⑦	「洋楽」に「空耳」でアプローチする歌活動の効果 ―高学年児童の歌への意欲と不安はどのように変化するのか？―	名渕　浩司	東京学芸大学附属世田谷小学校	実践	本研究は，これまで高学年で困り感のあった歌の活動について，童謡などではなく「洋楽」を材とし，「空耳」という手段を用いることで，歌を授業で扱うということの価値をさらに拡張できるのではないか，という仮説を実践した授業開発研究である。「洋楽」を材とすることで子ども達は歌の活動により高い意欲をもち，「空耳」を通して「遊ぶ」ことで，曲の英語の質量両方の心理的負担が軽減されることが質問紙調査により示唆された。	
	⑧	小学生の音素知覚能力の実態調査　ー日本語の音に近い８つの子音に焦点をあててー	宮毛　俊紀	川崎市立旭町小学校	研究	本研究は，2018年度から先行実施を行っている川崎市A小学校の３～6年生の音素知覚能力の実態調査を２年間にわたり実施した。調査した音素は日本語の音に比較的近い８つの子音（/s/, /m/, /t/, /b/, /k/, /p/, /d/, /g/）で，２種類のテストが用いられた。結果は，学年が上がるにつれて音素知覚能力の発達が見られることやターゲット音素の種類によって発達の度合いに差があること等が示され，小学生に必要な音声指導への示唆が得られた。	
第2室	⑨	熟達教師の音声指導の変容に関する事例研究―授業実践と省察に表れる教師の信念とのかかわりに着目して―	和田　あずさ	宮城教育大学	研究	本研究は，熟達期の小学校教師（授業者）の音声指導が，教師の信念と授業経験とのかかわりの中でいかに変容するのかについて詳らかにすることを目的とする。外国語活動の参与観察と省察にて得られたデータの質的分析から，教師の信念自体に大きな変容はない一方で，実際の音声指導は，教師の信念と結びつきながら，指導経験から形成されたルーティーンが即興的思考や状況的思考によって適用される段階に移行していると考えられる。	大谷五十二
	⑩	日本と韓国の小学校英語教科書の語彙分析 ― 難易度および外来語の観点から	馬場　千秋	帝京科学大学	研究	2020年度から使用されている「外国語」検定教科書7種類14冊，2018年度から継続して使用されている"Let's Try! 1, 2"，2017年度から韓国で使用されている主要な検定教科書3種類（計12冊）を分析し，(1) 日韓の教科書で重複する語彙，異なる語彙はどのようなものか，(2)日韓の教科書に見られる語彙の難易度はどのように異なるのか，(3)日韓の教科書には，外来語として各言語に入っている語彙はどのくらい見られるかについて検証する。	

第21回 小学校英語教育学会(JES) 関東・埼玉大会　自由研究発表プログラム

自由研究発表　10月10日（日）【午後の部】　⑥ 12:50～ 13:20　⑦ 13:30～14:00　⑧14:10～14:40　⑨14:50～15:20　⑩15:30～16:00

教室	発表時間	発表タイトル	発表者	所属	研究/実践	発表概要	司会者
第3室	⑥	子どもの振り返りを活かした言語活動の実践ー伝えたい、尋ねたい、聞きたいを育てる言語活動をめざしてー	四方堂　欣美	横浜市立子安小学校	研究	学習の中に外国語が位置付けられ，新たな教科として本格的に始った。今までの外国語活動とは少し変化してきている。授業場面においても，スモールトークやスピーチが苦手で児童が固まってしまう姿や相手の言っていることが聞きあえない等の様子が見られた。より良い言語活動を目指し，児童の振り返りを通して研究を進めることで，児童の苦手意識を改善できればと考えこの実践に至った。	泉恵美子
	⑦	小学校における「話すこと［やり取り］」の評価　－指導者による面接型テストと児童同士の対話型テストの比較－	川村　一代 井上　大	皇學館大学 三重大学教育学部附属小学校	研究	話すこと［やり取り］を評価するテストには，指導者が学習者と対話する「面接型テスト」と学習者同士が対話をする「対話型テスト」がある。小学校では授業中児童同士対話する活動が多く行われているため，指導と評価の一体化という観点から「対話型テスト」の可能性を探るべく，「面接型」と「対話型」では児童の発話がどう異なるのか，①正確さ・流暢さ・複雑さ，②対話のパターン，③対話の特徴を調査・分析した。	
	⑧	small talkを中心とした小学校英語科の授業改善と評価指標の開発・共有 ＃２	田村　岳充	宇都宮大学教育学研究科専門職学位課程教育実践高度化専攻	研究	小学校教員を対象とする研修会で，児童のパフォーマンス映像を受講者が視聴し，モデルとなる評価規準・基準を使って実際に評価をする機会を設けるとともに，グループでのモデレーションを行った。研修後のアンケート結果から，受講者の不安が軽減され，理解が促進されたことが分かった。実際に評価を試行するワークショップ的な研修が小学校教員の不安の軽減につながることが示唆された。	
第3室	⑨	小学校外国語・外国語活動における評価に対する教員の意識 ～評価項目の重要度と評価方法に焦点を当てて～	深澤　真	琉球大学	研究	本研究は，新学習指導要領導入後の小学校外国語と外国語活動の評価に対する教員の意識を明らかにすることを主な目的としている。国公立11校の小学校教員を対象にアンケート調査を行った。その結果，小学校外国語では新学習指導要領で求められている4技能5領域及び主体性の評価を重視しており，筆記テストやパフォーマンス・テストも積極的に使用していることなどがわかった。それらの結果をもとに教育的示唆を行う。	川村一代
	⑩	小中連携を支える読み書きの指導と評価のあり方	田縁　眞弓 アレン玉井光江 泉　恵美子	京都光華女子大学 青山学院大学 関西学院大学	実践	本発表では，２つの実践を通して，児童がどのように自分たちの読み書き能力を評価しているのか，また実際の能力と自己評価がどのように関連しているのかを検証すると共に，トップダウンの読みの指導を交え評価の段階設計も試みた。学習指導要領の目標に照らし，出口を見据えた指導の中で，自己評価を取り入れることが学習意欲を高める。また，そのような指導と評価により小学校から中学校へのスムーズな接続ができると考えられる。	

第21回 小学校英語教育学会(JES) 関東・埼玉大会　自由研究発表プログラム

自由研究発表　10月10日（日）【午後の部】　⑥ 12:50～ 13:20　⑦ 13:30～14:00　⑧14:10～14:40　⑨14:50～15:20　⑩15:30～16:00

教室	発表時間	発表タイトル	発表者	所属	研究/実践	発表概要	司会者
第4室	⑥	小学校教員の英語音声指導に対する意識や指導技術の変容 ー視覚的教材を用いた高学年外国語授業の帯活動を通じてー	河合　裕美 高山　芳樹 松尾　理恵	神田外語大学 東京学芸大学 船橋市立薬円台小学校	研究	6年生通常学級担任と特別支援学級担任が視覚的教材を用いた明示的な音声指導を実施し，児童の発話者の「見る」傾聴姿勢を育成した結果，教員の指導に対する意識や指導技術がどのように変容したのかを分析した。教員は視覚的教材を使用することで英語音声指導法に対する理解が深まり，指導に対する自信を高め，指導技術を向上させていた。このことは，児童の英語音声に対する気付きや主体的な学びの促進に寄与すると思われる。	川上典子
	⑦	小学校段階の音韻認識指導をどう生かすか ー ローマ字と英語初期リテラシーの学びをつなぐ意義と課題 ー	池田　周	愛知県立大学	実践	音と文字の対応が複雑な英語で語を見て発音するには，語を構成する様々な単位で音韻認識を高めておく必要がある。本研究は，小学３年生を対象とし，ローマ字指導に「モーラを構成する音素に気づかせる」アプローチを取り入れた。直後に，日本語の外来語と対応する英語の語を用いて「はじめとおわりの音の認識」と「書き取り」のテストを行った。結果から，アプローチの有効性と，継続的な指導効果を高めるための課題を考察する。	
	⑧	小学生の使用するカタカナ語 調査報告	中野　聡	北陸学院大学	研究	小学校において，外国語活動，外国語科の授業が全面実施される中で，英語由来のカタカナ英語に多くの機会で触れている小学生に対して指導者はどのような指導を必要とするか，あるいはできるかを視野に入れて，（1）児童は，どのような英語由来のカタカナ語を身近に感じているのか。（3）カタカナ語についてどのような感情を持っているのか。を中心に小学校5，6年生　に対して調査を行った。基礎研究としてその結果を報告する。	
第4室	⑨						
	⑩						

第21回 小学校英語教育学会(JES) 関東・埼玉大会　自由研究発表プログラム

自由研究発表　10月10日（日）【午後の部】　⑥ 12:50～ 13:20　⑦ 13:30～14:00　⑧14:10～14:40　⑨14:50～15:20　⑩15:30～16:00

教室	発表時間	発表タイトル	発表者	所属	研究/実践	発表概要	司会者
第5室	⑥	児童が固まりとして認識している文構造の知識―誘因模倣課題の結果から―	内野　駿介	北海道教育大学	研究	小学5, 6年生を対象に誘因模倣課題を実施し，文頭から何語目までを正しく復唱できるかを分析したところ，文構造ごとに特徴的な結果が得られた。例えばwant toを含む文ではtoまで復唱できた児童が多く，I want toは固まりとして記憶されやすいことがわかった。また6年生では全文を復唱できる児童数が多かったことから，学習が進むと英文の固定部と可変部に関する知識を元により多様な文を運用できるようになる可能性が示唆された。	上原明子
	⑦	小学校教員を対象としたWillingness to Communicate調査研究 ―小学校教員のどの程度，L2WTCを兼ね備えているのか？―	瀧沢　広人	岐阜大学	研究	日本におけるWTCは，大学生を対象とした研究から中・高校生へと進み，現在小学生まで研究が進んでいる。しかしながら，肝心の指導者へのWTCは調査されていない。本研究は，小学校教員のWTCを調査し，実態を把握することを目的とし，小学校教員に質問紙調査を行った。その結果，小学校教員のWTCが低い結果となった。経験年数や留学経験等によるWTCには，有意な差は確認されず，小学校教員全般的な傾向が確認できた。	
	⑧	「児童の声」が創る「ユニバーサル教材教具」―筑波大学附属視覚特別支援学校小学部における工夫と実践―	股野　儷子	津田塾大学インクルーシブ教育支援室	実践	筑波大学附属視覚特別支援学校小学部の「外国語」の授業は，盲児，弱視児，重複障害のある児童のクラス編成で実施されている。2020年度より"Junior Sunshine"5,6を使用するに当たり教科書分析を試みた。①文字の学習②読む力③文の語順④中学校との連携を重視している。それに資する，筆者が2011年度より9年間に亘り既に「児童の声」に沿って工夫作成してきた「ユニバーサル教材教具」とその活用方法を実践報告したい。	
第5室	⑨	学習者の特別なニーズと英語学習支援・指導のあり方 ― 観察項目表を使っての学習者理解から―	佐藤　玲子 山口　真佐子 林田　宏一 会田　信子 大槻　友紀 川﨑　育臣 四方堂　欣美 松津　英恵 三田　裕太	明星大学 桜美林大学 (一社)あかつき心理・教育相談室 大田区立入新井第四小 明治大学大学院（院生） 大阪府和泉市立和気小 横浜市立子安小学校 東京学芸大学附属竹早中 青梅市立第五小	研究	通常教室での個に応じた英語学習支援・指導の調査・分析ついて報告する。学習者の特別なニーズを把握するための観察項目表（ 不適応行動の背景「感覚処理の困難」に焦点をあて,自立活動「環境の把握」の観点から，教師が教室で実施でき客観的に評価できるツール）の開発・既存のアセスメントツールとの比較・使い易さの検証を踏まえ，その観察項目表の使用と指導者による授業観察記録から英語学習支援・指導のあり方を調査した。	猫田和明
	⑩	小学生は異文化体験を通して何を学んだか―CEFRと相互文化的能力による分析と教科としての新しいカタチの提案―	阿部　始子 中村　香	東京学芸大学 東京学芸大学付属小金井小学校	研究	留学生との交流を通して子どもたちが何を学んだかについて，アンケートや体験直後の振り返りなどをデータとし，CEFR Pre-A・相互文化的能力の枠組みを用いて分析した。結果，英語学習だけでなく自ら話しかける意欲も高まったことが示唆された。文化については6割以上が発見や視野の広がりがあったと回答し，自国文化を見つめ直す姿勢，相手の対話方法や価値観への気づきなども見られた。異文化体験を含む単元計画の留意点にも言及する。	

第21回 小学校英語教育学会(JES) 関東・埼玉大会　自由研究発表プログラム

自由研究発表　10月10日（日）【午後の部】　⑥ 12:50～ 13:20　⑦ 13:30～14:00　⑧14:10～14:40　⑨14:50～15:20　⑩15:30～16:00

教室	発表時間	発表タイトル	発表者	所属	研究/実践	発表概要	司会者
第6室	⑥	教師のティーチャートークの力を高める対話的な教員研修 －小学校英語教育のデジタルコンテンツの開発を通してー	古賀　真也 柏木　賀津子	池田市立五月丘小学校 大阪教育大学	実践	本研究では，（1）小学校教員が外国語科のティーチャートークを身につけること，（2）（1）を教員が研修内容を共有し再現できるよう，研修用デジタルコンテンツを開発することを目的とした。取り組みでは，MERRIER Approach（渡邉，1995）を援用してコンテンツを開発し，研修を行なった。研修では，（1）コンテンツの視聴を行い，ティーチャートークの作り方の説明を行った。（2）実践した動画を持ち寄り，感想を述べ合った。ルーブリックによる省察や参加者の対話を通して，理解が深まったという感想が得られた。	松宮奈賀子
	⑦	小学校におけるALTの意義の再考ー日本人ALTという立場からー	仲沢　淳子	上智大学短期大学部（非）	実践	外国人ALTは子ども達にとっては「異文化の代表」であり，子ども達に言葉の壁を体験させる機会を与えることができる。一方，日本人ALTは，子ども達にとって身近な英語話者モデルであり，更に日本の英語教育の仕組みに理解を示し，担任に寄り添える存在となり得る。外国語教育の目標を叶えるためには，ALTを配置する目的を再考し，「ALTにどのような役割を求めるか」をより明確にする必要があるのではないか。	
第6室	⑧	"Unit/Lesson Plan Spreadsheet"を活用した授業作りーALTとの確かな連携を目指してー	根岸　清人	苫小牧市立明野小学校（北海道）	実践	ティーム・ティーチングの環境向上と授業改善の推進を目指し，"Unit/Lesson Plan Spreadsheet"を新規に開発した。インターネットを介してシート上の指導計画をALTと共有し，事前準備の円滑化を図った。その結果，「指導内容の共通理解や，授業案を協働して立案することが容易になった」，「指導と評価のポイントをより適切に共有できた。」，「打ち合わせ時間を大幅に短縮することができた。」等の改善点が見られた。	柏木賀津子
	⑨	小学校教室内教師英語力Can-Do尺度開発の試みー教師言語機能別尺度とパフォーマンスベンチマークの作成	長沼　君主 狩野　晶子 俣野　知里 引山　大士 幡井　理恵 羽田　あずさ 黒木　愛 松崎　奈穂	東海大学 上智大学短期大学部 京都教育大学附属桃山小学校 高槻市立日吉台小学校 昭和女子大学附属昭和小学校 横須賀市立田戸小学校 杉並区立堀之内小学校 上尾市立原市南小学校	研究	本研究では，これまでに香港のLPATE（英語教師言語能力評価）を参照して科研にて開発された「教室内教師英語評価尺度」に基づいて，取り分け，教師の教室内における言語機能に焦点をあてたCan-Do尺度及びその記述文のベンチマークとして，言語機能の注釈入りのパフォーマンスモデルを学級担任から専科教員レベルへの熟達を示すように開発した。結果，あらためて児童理解に基づいた言語調整の重要性が指摘された。	
	⑩						

第21回 小学校英語教育学会(JES) 関東・埼玉大会　自由研究発表プログラム

自由研究発表　10月10日（日）【午後の部】　⑥ 12:50～ 13:20　⑦ 13:30～14:00　⑧14:10～14:40　⑨14:50～15:20　⑩15:30～16:00

教室	発表時間	発表タイトル	発表者	所属	研究/実践	発表概要	司会者
第7室	⑥	検定教科書からみる小中連携ー＜Unit 0＞を中心に	髙橋　和子	明星大学	研究	本研究は，中学校1年英語検定教科書の冒頭部（いわゆるUnit 0）を分析し，中学校入学時の子どもたちが，何をどこまで身につけていることが前提にされてきたのかを考察する。その上で，今後の小中連携の方向性を検討することを目的とする。2021年度から使用が開始された検定教科書のほか，これ以前の中学校１年英語検定教科書の冒頭部分も分析対象とする。☒	中村香恵子
	⑦	Learning by Storytelling(LBS)指導モデルに基づいた英語で書く力の素地となる中学年の英語指導法開発	オーガスティン真智 田縁　眞弓 小野　尚美	ノートルダム学院小学校 京都光華女子大学 成蹊大学	実践	高学年の英語の読み書き能力の素地作りとして，中学年の外国語活動は重要である。本研究では，Hi, friends!2の「桃太郎」を使った，Learning by Storytelling(LBS)指導モデルに基づく中学年の文字認識と書く指導法を紹介する。ストーリーテリングに伴う活動として児童は，インタラクション，単語の音声化，英単語の認識，発表者自作のワークシートを行った後，英語で書く活動を行った。この一連の指導は，児童の英語で書く意欲を高めることができた。	
	⑧	絵本の内容と外国語活動の単元を紐づけた活動方法の提案 『Let's Try! 1』Unit4 I like blue.2の単元と絵本を用いた活動	伊藤　摂子	武蔵野大学	研究	中学年の外国語活動において，絵本と単元を紐づけた活用についての提案をする。本研究では『Let's Try! 1』Unit 4 I like blueの単元を取り上げる。この単元では，”like”を中心とした英文に多く触れており，この学びを深めるため市販の絵本I LIKE DOLLS.の利用例を示し，1つの単元で絵本を扱う際の指導案，活動方法等の提案，この活動を実践した場合の学びについて考察する。	
第7室	⑨	Swimmyの小学校英語教材としての可能性を探る―読み聞かせと世界各国の表紙の比較を通してー	今井　麻紀	東京学芸大学大学院生	実践	小学校国語科で採択されている『スイミー』の原作Swimmyは小学校英語の授業で扱うことが難しいと言われている。本研究では，Swimmyの読み聞かせと世界各国の表紙比較を通して，小学生が難しい英語表現に対してどのような姿勢や態度を示すのか，また異文化やその背景についてどのようなことを感じるのかを調査し，小学校英語教材としてのSwimmyの可能性を探る。	高橋和子
	⑩	英語絵本を使った授業の有効性に関する研究―児童の「振り返りシート」からー	杉山　卓 後藤　明音 小山　陽瑚	拓殖大学 拓殖大学 拓殖大学	実践	本研究は小学校「外国語」の授業における絵本指導の効果について調査した。授業では5・6年生を対象に英語絵本の読み聞かせをし，振り返りシートを書かせ，児童の内容理解と目標言語の習得を見た。また絵本による理解度の違いがあるかを考察した。結果，内容理解と目標言語の定着度には差があり，指導者の狙いと児童の反応とのギャップが判明した。さらに，絵本の内容によって児童の個々の理解度にばらつきがあることが分かった。	

第21回 小学校英語教育学会(JES) 関東・埼玉大会　自由研究発表プログラム

自由研究発表　10月10日（日）【午後の部】　⑥ 12:50～ 13:20　⑦ 13:30～14:00　⑧14:10～14:40　⑨14:50～15:20　⑩15:30～16:00

教室	発表時間	発表タイトル	発表者	所属	研究/実践	発表概要	司会者
第8室	⑥	１対１オンライン英会話レッスンの効果的な指導の在り方 －「教科書」を使って主体的に話す活動構成の工夫を通して－	河村　昌宏	小郡市立三国小学校	実践	令和元年度から始まった小郡市小規模校魅力化推進事業2年目となる令和2年度の「１対１オンライン英会話」の実践，2学年各5回（10月から2月まで月1回，1回25分間）の取組を報告する。事前調査では，1対1で英会話レッスンを受けることは，小学生にとって，期待よりも不安感のが大きいことが分かった。オンラインレッスンに普段使用している教科書の取り入れ，教室授業とオンライン授業の活動構成の工夫を行い，1対1で話すことへの不安感を軽減できるのか，外国人講師からの評価は指導者にとって有用性があるのかなど考察し，効果的な活用法を探る。	佐藤　剛
	⑦	遠隔学習から得る学び 小学生と短期大学部生をオンラインで繋ぐ言語活動の試み	狩野　晶子 黒木　愛	上智大学短期大学部 杉並区立堀之内小学校	実践	小学校の教室と外部の英語話者などをオンラインで繋ぐ試みは，コロナ禍とGIGAスクール構想によるICT環境の整備に伴い，各所で試行されている。本発表では短期大学部英語科の学生と小学生による遠隔オンライン双方向交流の実施事例を紹介し，その可能性と有用性を検証する。さらに，オンラインでの交流が言語活動として成立するために必要な準備や構成，注意点などを参加学生と児童の省察を踏まえ具体的に提示する。	
第8室	⑧	世界をつなぐ外国語教育 ～オンライン授業の取り組みに関連させて～	加藤君江	島根県江津市立高角小学校	研究	小学校外国語教育ではならではの他教科と連携させた外国語教育の実践発表である。この実践は，3月松江市の姉妹都市「中国寧夏」とのオンライン授業を行う上で，それまでに何度もビデオ，手紙のやり取りを行った。オンライン授業に向け外国語の授業も1単元連携させ，英語を使う必然性，動機付け，外国語専科教員と担任との連携，他教科との連携などを駆使しながら，海をも越えた中国寧夏と友好的な授業を行うことができた実践例である。	階戸陽太
	⑨	明治時代と現代の小学校英語教科書に関する比較研究―CLILの視点を中心として―	二五　義博	海上保安大学校	研究	CLILの研究をする際には，海外ばかりではなく日本の過去の良き実践例にも目を向ける必要がある。本発表では，明治時代の小学校用国定英語教科書と現代の文部科学省検定済外国語科教科書（小学校５・６年生向け）を，CLILの割合や科目内容（理科・社会・算数および実技教科），使用されている文法や語彙，子どもの思考を深める視点から比較分析することにより，CLILを取り入れる際には過去から学ぶべき点も多いことを明らかにしたい。	
	⑩						

第21回 小学校英語教育学会(JES) 関東・埼玉大会　自由研究発表プログラム

自由研究発表　10月10日（日）【午後の部】　⑥ 12:50～ 13:20　⑦ 13:30～14:00　⑧14:10～14:40　⑨14:50～15:20　⑩15:30～16:00

教室	発表時間	発表タイトル	発表者	所属	研究/実践	発表概要	司会者
第9室	⑥	小学校外国語科における推測して「読むこと」の指導	山内　優佳 高橋　美由紀 柳　善和	広島大学 鈴鹿大学 名古屋学院大学	研究	小学校学習指導要領においては文字としての未知語を文字の発音や非言語的な情報を活用しながら読み・理解することを「推測」としている。一方で，様々な実践例の中には，内容面に関する推測を含む場合もある。多くの場合推測は脳内で無意識に行われているが，小学校においては，文字の発音やイラストに児童が目を向けるよう，指導上の手立てを工夫する必要がある。本発表では，読む活動として，絵本を使用した活動を提案する。	長田恵理
	⑦	公立小学校におけるリタラシープログラムの効果についてー授業時間数との関係から見た実証研究ー	アレン玉井光江	青山学院大学	研究	公立小学校での外国語科導入にともない，高学年で週２回，また中学年で週１回の外国語（活動）の授業が実施されている。本発表では公立小学校で実践してきた読み書き能力を高めるプログラムについて説明し，高学年で週１回から２回に授業が増えたことで当該プログラムがどのような影響を受けたのかを調べた結果を報告する。具体的にはプログラムに参加した児童（244名）の英語力を比較し，その効果を見ている。	
	⑧	小学校外国語科でのプロセスライティングの実践ーマインドマップとタブレット端末を活用した個別自律型学習	日浅　彩子	アリゾナ州立大学 博士課程	実践	本実践報告では，プロセスライティングの手法を用いて，マインドマップとタブレット端末を使って，児童が自分の関心を持つ国についての詳細（内容）とその英語での表現方法（語彙）を個別に調べ，英作文をするという活動を行った。教具や指導の工夫により，初級者であっても，内容や英語面で充実した英作文することが可能であることが明らかになった。また，学びの過程が可視化されることにより，より包括的な評価が可能になった。	
第9室	⑨	思考力・判断力を活かし，コミュニケーションを続けようとする児童の育成～表現リストと言語活動を関連付けた短時間学習を通して～	栗林　智美	取手市立宮和田小学校	実践	児童の思考力・判断力を高めることを目的に，小学校４年生を対象としたコミュニケーションを円滑にする表現のリストを用いた実践研究を行った。表現リストとやり取りの目的や場面を重視した言語活動を関連付けた短時間学習を１２回実施した後，児童のやり取りを「相手への配慮」「既習表現の組み合わせ」等の観点で分析した結果，思考力・判断力の向上が見られた。また，リストとの相関はなかったが，Ｌ２WTCの数値が上昇した。	竹内宣広
	⑩	異文化間交流におけるアウトプットの指導：絵本紹介を作り上げる過程から	佐々木　雅子	秋田大学	研究	本研究の目的は，小学校英語教育で展開する異文化交流におけるアウトプットの指導を探るものです。小学生の異文化交流の機会を言語習得の場とするためには，インプットからアウトプットをどのようにつなげていくかが重要です。4年生がグループで絵本紹介をする指導過程をデザインし，3つのグループを分析しました。インプットとインタラクションが言語的リソースとなり，模倣によるアウトプットがなされていました。	

第21回 小学校英語教育学会(JES) 関東・埼玉大会　自由研究発表プログラム

自由研究発表　10月10日（日）【午後の部】　⑥ 12:50～ 13:20　⑦ 13:30～14:00　⑧14:10～14:40　⑨14:50～15:20　⑩15:30～16:00

教室	発表時間	発表タイトル	発表者	所属	研究/実践	発表概要	司会者
第10室	⑥	エビデンスに基づく小学校英語に関する基礎概念の整理	寺沢　拓敬 草薙　邦広	関西学院大学 県立広島大学	研究	亘理陽一他著『英語教育のエビデンス』（研究社，2021）に基づき，いかに小学校英語の研究者が「エビデンスに基づく教育」（Evidence-Based Education；以下EBE）に取り組むべきかを論じる。本報告では，EBEの理論的背景とその意義を整理する。まず，EBEの基本概念である，「処遇→アウトカム」，因果効果，エビデンス階層を説明する。次に，因果効果の推定方法について，研究デザインの面から議論する。具体的には，エビデンス階層を貫く原理である外的妥当性・内的妥当性に注目し，どのようにすればこれらが向上できるか論じる。	横川博一
	⑦	学会はエビデンスに基づく教育にどのように取り組むべきか？	草薙　邦広 寺沢　拓敬 酒井　英樹	県立広島大学 関西学院大学 信州大学	研究	本発表は，亘理他著『英語教育のエビデンス』（2021）に基づき，「エビデンスに基づく教育」（EBE）を小学校英語に導入する上で，学会を主体として議論すべき点について論じる。EBEの導入には，多様な対象を比較可能とする共通の基盤，つまり標準化が手続き上不可欠である。この方針の下，処遇（教育プログラムや指導法）およびアウトカム（ある処遇が及ぼす成果を表す変数）を標準化するための具体的な方策を事例とともに提案する。	
	⑧	小学校英語教育に関する科学的根拠生成のための アウトカム指標の検討 ―「知識・技能」に焦点を当てて―	酒井　英樹	信州大学	研究	英語教育において因果関係を示す科学的根拠（エビデンス）の生成・評価・活用が提案されている。本研究は，小学校学習指導要領で示されているコミュニケーションを図る素地（基礎）となる資質・能力の育成を政策目標であると仮定して，「知識・技能」に焦点を当て，小学生を対象にした研究や調査で用いられている測定具（アウトカム指標）を分析・検討した。構成概念の検討及び信頼性の確認，変容の検出可能性の点から分析した。	
第10室	⑨						
	⑩						